

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム花々館郡山 2ユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市郡山町2157-1
記入者名 (管理者)	江口 弘子
記入日	平成 21 年 11 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心できる暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支える為の柔軟な支援を当事業所の理念の柱において		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和することで意識を高めるようにしている又、日常の介護支援の中で理念を活かした活動ができるよう努めている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	花便りに理念を掲載し、家族や地域の関係者・機関などに発行し又訪問者にわかる様施設内の玄関及びフロアに掲示しており理念の浸透に努めている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々と日頃より挨拶を交わし、開放的な雰囲気づくりに努め、日常的な交流ができるよう努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民としての自覚を持ち、地域の行事や活動に積極的に参加し、地元の人々との交流に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に認知症を正しく理解してもらうためにホームの新聞(花便り)を通しての啓蒙や地域での研修会に参加し、ホームでの活動など地域に伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価を回覧し、職員間で話し合いの場を設け、早急に 解決すべき課題があればすぐに検討し、改善に繋げる様、努めている。又、評価の結果は外部の人にも閲覧できるように館内に展示してある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回推進会議を開催し、家族代表や民生委員・各種関係機関の方々に参加して頂いている。評価の結果報告や日々の活動状況・事故の報告等を行い意見を求め、サービスの向上に活かせるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が実施する説明会・研修会等に積極的に参加している。介護保険業務の円滑な遂行の為に利用者と関係機関の間に立って連携を図れるように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習委員会を中心に、権利擁護に関する勉強会を定期的実施し研修会にも積極的に参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に定期的に虐待についての勉強会を行なっている。虐待の定義を基に入居者一人一人当てはまるものがないか各フロアーごとで定期的に検討し注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に本人・家族の不安・疑問の解消に努め、理解・納得できるまで繰り返し説明を行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、入居者と十分な話をする事で相談・苦情が言いやすい環境作りに努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回写真入の近況報告書を発行し、日常の様子の報告を行なっている。又、金銭管理については、使途・残金等記入し家族に説明を行いサインを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に苦情・相談窓口や担当者を明示し利用方法の説明を行なっている。、意見箱を設置し又、直接話す機会を持つようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を行い、日々の送りや会議にてスタッフよりの意見を聞き又、個々に話を聞くことで検討・改善を図っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に合わせた基本的なローテーションを組んでいるが、その時々々の行事等に合わせて勤務調整の実施を行なっている。又その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の継続に努め、管理者は職員の動きやすい環境作りを考慮し、要望や悩み・相談事に時間をとり勤務体制にも柔軟に対応し、職員間も率直に意見交換ができ、離職を抑える努力や工夫を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修への参加や外部研修に職員を交代で参加している。又、ホーム内での各種委員会による勉強会を毎月のミーティング時に行い全職員の質の確保に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し2～3ヶ月毎の研修会に参加するなど交流の機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。又、地域の同業者とも情報交換を行いネットワークづくりに取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	医療法人が行なう福利厚生による慰安旅行や食事会等又は、独自で定期的に行なう食事会等により職員間の親睦を深める様、努めている。個別に悩みを聞くなど様子を見て声をかける等、ストレスを溜め込まないよう配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が向上心を持ち資格取得ができるように又は研修等を受けられる様に勤務調整や協力を行なって各自の資質向上に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学の際には、ご本人も一緒に来ていただき、ご本人よりこれまでの生活等、出来るだけお話を伺い、又、当ホームやここでの生活等を詳しく説明することで不安を解消できるよう努めている。入居後すぐは、環境の変化等により心身ともに不安になりやすいので寄り添い、関わりの時間を多く持つようになっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談から見学の際に、できるだけお話を伺い、これまでの経緯や家族の思い等をじっくりと聞き、安心して頂ける様、努めている。又、当ホームや個々での生活等についての説明をしっかりとすることで不安の解消に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて関係者や行政・関係機関との連携をとりながら慎重な対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設見学をして頂き、本人が納得され自然な形で移行できるように、家族の協力を得ながら不安の軽減を図るため、寄り添い、他の入居者との信頼関係が早く築ける様、働きかけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事一般を共に行ないながら、入居者の方の思いに気づき、寄り添い、教わったりしながら共に支えあえる関係が気づける様、留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方の日常の様子について家族との情報交換を行い、情報の共有に努め、理解し合いながら、本人にとってより良いケアができる様、支えあう関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族、双方から思いや意見を聞きながら家族が寄り添っていけるように双方に働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との繋がりが途絶えることのない様、外出支援や家族の協力で外出ができるよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レク活動や家事支援を通し、入居者同士の関係を把握しながら、良い関係が築けるように必要に応じて声かけや支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も必要に応じて家族や入居者の相談・支援ができる様な関係を保つようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりや会話の中で入居者のご希望や意向を掴んだり、御家族などからお伺いした生活歴等によりご本人が望む生活が送れるよう努めている。意思表示がなかなかできない方は表情・言動・しぐさから読み取るようにしている。また、職員全員でその情報を共有し日々の生活に反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後、本人・家族より生活歴や生活環境・又、これまで利用していたサービスについて伺い、本人の全体像を知る取り組みをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活パターンと心身状態を理解するとともに行動や小さな動作等から本人の全体像を把握することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の情報から入居者・家族・関係者が意見や要望を話し合い、チーム検討会でよりよい暮らしのために必要なケアを検討し、介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しとともに状態が変化した時は速やかにご本人や家族・計画作成担当者や職員などでサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画へ変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化をきちんと介護記録に残し、全職員が必ず眼を通すことにより、情報の共有化をはかり、ケアに繋がっている。会議や普段の会話の中でも気づいたことは積極的に意見を出し合い介護計画にも反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・買物・理美容等は、本人・家族の要望に柔軟に対応している。又、法人内の事業所と連携し看護師による連絡体制を確保し、急変時における医療機関との連携・調整を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮していけるように警察や民生委員・消防・学校等、各関係機関に働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の協力をもらいながら地域の図書館や温泉施設を利用し又、本人の要望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂きホームの在り方や地域の課題等を助言され、お互いに協力しあう場を設けている。又、必要に応じて相互訪問し相談等を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医への受診も可能である。基本的には家族同行となっているが、不可能な時にはケアマネ対応で行い、家族と協力し、通院介助を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	学習委員会を中心に個人情報やプライバシーに関する勉強会を行い職員の意識向上を図り、定期的に検討会も行い、確認・改善に努めている。利用者の個人情報漏洩防止にも取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の関わりの中で、話しやすい雰囲気作りを心がけ、ご本人の希望や思いを聴きだせるよう努めている。着る洋服なども選んでいただくなど一つ一つ確認しながら、できるだけ自己決定できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、入居者の気持ちを優先して支援している。レク活動など強制せず、したい方にしていただいている。自室ではテレビを観たり、ベッドで休んだり一人一人のペースで思うままに生活している。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容等、馴染みのお店を利用できるよう支援し、毎朝の整容等には気をつけ洋服等も選んで頂いたり、一緒に選んだりとしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で食べたい物を聞き、栄養士と相談しメニューに取り入れてもらっている。又、菜園で取れた野菜や差し入れて頂いた野菜など、調理に加えるなどして職員と一緒に準備・食事・片づけを行なっている。食事前には嚥下体操を行い、メニューの説明し、おいしく食べられるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームで提供するおやつ以外で自分で買われた物や家族が持参されたものを飲食されたりしている。催しがある時には希望者にはお酒を出している。タバコについては職員が預かり、本人の希望する時には他の入居者の迷惑にならないよう換気の良い場所で吸える様、配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を確認しながら、時間を見計らってトイレ誘導している。又、一人の排泄パターンを把握し、仕草などに気をつけてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝の健康チェックを行い、入居者の意向を確認し、ゆっくりと入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様、努めている。夕食から就寝時までの間に、フロアにてテレビを観たりおしゃべりしたりしてゆっくりとくつろいでもらっている。又、寝付けないう時には、添い寝をしたり、一緒に温かい飲み物を飲みながらお話ししたりと配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を考慮し、その人に合った役割を持ってもらうことで楽しみごとに繋げている。又、戸外での活動や趣味を活かし、張り合いや喜びのある生活に繋げている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理できる方にはして頂き、困難な方はホームの保管庫にて預かり、管理している。買物などの際には、本人にサイフを渡し、御自分で支払ができる様、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、体調や気分にあわせ散歩や買物に出掛けている。外での活動や芝生の所で一緒にお茶を飲んだりと外に出る機会を多く持つようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに初詣やイチゴ狩り・花見・ソーメン流しなど家族と共に外出し又、地域の催し物などに出掛けられる様支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかきたい時に電話がかれる様、支援しており、ご家族から手紙を頂いた時には、読んであげ、手紙の希望がある時には代筆や見本を見ながら自分で書ける様、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂ける様、笑顔で接し、明るい雰囲気作りに努めている。いつでも自由に来て頂ける様お伝えし、ゆっくり過ごして頂ける様、配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心とし勉強会でもテーマとして取り上げ、全職員への意識付けを行なっている。身体拘束とは何か、そしてそれによりどのような弊害があるかなど、話し合いながらケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・非常口・テラス、共に鍵を掛せず、見守りを行なっている。夜間は夜勤者のみになった時点で、防犯上施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者の所在確認は職員同士、目配りしている。昼寝時も時々居室をのぞくなどして安全面に配慮している。夜間は頻回の巡視を行い、安否確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人で管理できる方については、はさみや爪切りなど自己管理されている。洗剤などは目の届きにくい、リネン庫や脱衣所の上の棚に保管している。包丁類は本数の確認を日中定期的に行い、夜間は事務所にて保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	身体拘束委員の中に事故防止を含め、定期的に勉強会を行なっている。事故発生時、若しくは予測される事故に対して全職員を集め、事故に至った経緯、反省点など話し合い、今後の予防策に活かす様、努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアル、及び緊急時の連絡体制を整え、スタッフ全員が熟知できる様に定期的に勉強会を行なっている。全職員が人工呼吸や心肺蘇生法ができる様、普通救命救急講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会を中心に毎月、勉強会や自主訓練を行い又、消防立会いの下、実践訓練を行なっている。救命ボランティアに登録し地域との協力体制を整えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時、その他電話等で本人の状態報告を行い、現状や今後の可能性を理解して頂きながら、利用者の希望に沿った暮らしを支えられる様、支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも変化や異常が見られるときにはバイタルチェックを行い、すぐに看護師へ報告し、主治医との連携を図り、医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書はすぐに見れるよう、個々のファイルに閉じてあり、勉強会でも現在、飲まれている薬についての理解を深めている。投薬ミスがない様、薬を渡す際には職員が日付けと名前を確認しながら声を出して、本人に手渡し、もしくは、口腔内に薬をいれ、飲み込んだところまで確認することになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便回数や量・状態を把握し、水分補給や腹部マッサージなどで対応し、できるだけ緩下剤等、薬を使わないようにしている。食事やおやつに繊維物を取り入れたり、牛乳を飲んでいただいたりしている。散歩や体操など、体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人一人の力量に応じて不十分な部分は介助を行っている。又、就寝時には義歯洗浄を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士により栄養バランスのとれた献立を作ってもらっている。食事・水分摂取量をチェックして記録をとり、スタッフ間で情報を共有している。又、個々の状態に応じた食事形態にしている。食欲がない時などは、ご本人が好きなものを間食として食べて頂くなどしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会を中心に感染対策マニュアルに基づき、定期的に勉強会を行い、種々の感染予防に努めている。感染症の流行時期や動向を早期に情報をもらい、対策を行なうことで流行発生を予防できている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や水周りの衛生管理に努め、食材は新鮮なうちに使い切っている。冷蔵・冷凍庫の食材の在庫や日付点検を行い、適宜、掃除を行い安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節に合わせた花の鉢を置いたりして、親しみやすいように心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロア内の飾り付けを行い、季節感を感じるように配慮している。カーテンやよしず等で光の調節を行い、不快な音を立てないように配慮している。2階では夏場、ベランダににがごりのグリーンカーテンを作り、目でも楽しめるよう、入居者にとって居心地良く生活できる空間となるよう工夫を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席やソファなどで気の合った入居者同士で会話をされたり、居眠り・テレビ観賞など、思い思いに好きな場所で自由に過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や愛用品又、仏壇など持ち込み、少しでも利用前の生活が維持でき、安心して過ごせる様、配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、窓を開け空気の入替えを行いだよみがない様、気をつけている。湿温計を確認しながら調節し又、入居者一人一人に聞いたり様子を見てあわせている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等全てに手摺を設置し又、歩行の障害となる物を置かないよう、安全に移動できるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度、職員一同で話し合い本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花や野菜を植え、水やりや収穫などをして頂いている。玄関先や芝生にベンチを置き、入居者が涼んだり日なたぼっこを楽しんでいる。又、入居者全員で芝生に出て、お茶を飲んだり、レク活動をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①入居者、一人一人のペースに合わせ、個別性を重視したサービス提供に日々取り組んでいる。
- ②医療連携の強化を図り、入居者の健康管理を24時間体制で見守っている。
- ③全職員が各種委員会（学習委員会・感染委員会・身体拘束委員会・防災委員会）に所属しており、各委員会を中心に毎月1回、勉強会を行い資質の向上に努めている。
- ④職員の健康管理やストレスの軽減を図る取り組みを行なっている。

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心できる暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支える為の柔軟な支援を当事業所の理念の柱において		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和することで意識を高めるようにしている又、日常の介護支援の中で理念を活かした活動ができるよう努めている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	花便りに理念を掲載し、家族や地域の関係者・機関などに発行し又訪問者にわかる様施設内の玄関及びフロアに掲示しており理念の浸透に努めている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々と日頃より挨拶を交わし、開放的な雰囲気づくりに努め、日常的な交流ができるよう努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民としての自覚を持ち、地域の行事や活動に積極的に参加し、地元の人々との交流に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に認知症を正しく理解してもらうためにホームの新聞(花便り)を通しての啓蒙や地域での研修会に参加し、ホームでの活動など地域に伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価を回覧し、職員間で話し合いの場を設け、早急に 解決すべき課題があればすぐに検討し、改善に繋げる様、努めている。又、評価の結果は外部の人にも閲覧できるように館内に展示してある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回推進会議を開催し、家族代表や民生委員・各種関係機関の方々に参加して頂いている。評価の結果報告や日々の活動状況・事故の報告等を行い意見を求め、サービスの向上に活かせるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が実施する説明会・研修会等に積極的に参加している。介護保険業務の円滑な遂行の為に利用者と関係機関の間に立って連携を図れるように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習委員会を中心に、権利擁護に関する勉強会を定期的実施し研修会にも積極的に参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に定期的に虐待についての勉強会を行なっている。虐待の定義を基に入居者一人一人当てはまるものがないか各フロアーごとで定期的に検討し注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修への参加や外部研修に職員を交代で参加している。又、ホーム内での各種委員会による勉強会を毎月のミーティング時に行い全職員の質の確保に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し2～3ヶ月毎の研修会に参加するなど交流の機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。又、地域の同業者とも情報交換を行いネットワークづくりに取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	医療法人が行なう福利厚生による慰安旅行や食事会等又は、独自で定期的に行なう食事会等により職員間の親睦を深める様、努めている。個別に悩みを聞くなど様子を見て声をかける等、ストレスを溜め込まないよう配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が向上心を持ち資格取得ができるように又は研修等を受けられる様に勤務調整や協力を行なって各自の資質向上に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学の際には、ご本人も一緒に来ていただき、ご本人よりこれまでの生活等、出来るだけお話を伺い、又、当ホームやここでの生活等を詳しく説明することで不安を解消できるよう努めている。入居後すぐは、環境の変化等により心身ともに不安になりやすいので寄り添い、関わりの時間を多く持つようになっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談から見学の際に、できるだけお話を伺い、これまでの経緯や家族の思い等をじっくりと聞き、安心して頂ける様、努めている。又、当ホームや個々での生活等についての説明をしっかりとすることで不安の解消に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて関係者や行政・関係機関との連携をとりながら慎重な対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設見学をして頂き、本人が納得され自然な形で移行できるように、家族の協力を得ながら不安の軽減を図るため、寄り添い、他の入居者との信頼関係が速く築ける様、働きかけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事一般を共に行ないながら、入居者の方の思いに気づき、寄り添い、教わったりしながら共に支えあえる関係が気づける様、留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方の日常の様子について家族との情報交換を行い、情報の共有に努め、理解し合いながら、本人にとってより良いケアができる様、支えあう関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族、双方から思いや意見を聞きながら家族が寄り添っていけるように双方に働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との繋がりが途絶えることのない様、外出支援や家族の協力で外出ができるよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レク活動や家事支援を通し、入居者同士の関係を把握しながら、良い関係が築けるように必要に応じ声かけや支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も必要に応じて家族や入居者の相談・支援ができる様な関係を保つようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりや会話の中で入居者のご希望や意向を掴んだり、御家族などからお伺いした生活歴等によりご本人が望む生活が送れるよう努めている。意思表示がなかなかできない方は表情・言動・しぐさから読み取るようにしている。また、職員全員でその情報を共有し日々の生活に反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後、本人・家族より生活歴や生活環境・又、これまで利用していたサービスについて伺い、本人の全体像を知る取り組みをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活パターンと心身状態を理解するとともに行動や小さな動作等から本人の全体像を把握することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の情報から入居者・家族・関係者が意見や要望を話し合い、チーム検討会でよりよい暮らしのために必要なケアを検討し、介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しとともに状態が変化した時は速やかにご本人や家族・計画作成担当者や職員などでサービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画へ変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化をきちんと介護記録に残し、全職員が必ず眼を通すことにより、情報の共有化をはかり、ケアに繋がっている。会議や普段の会話の中でも気づいたことは積極的に意見を出し合い介護計画にも反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・買物・理美容等は、本人・家族の要望に柔軟に対応している。又、法人内の事業所と連携し看護師による連絡体制を確保し、急変時における医療機関との連携・調整を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮していけるように警察や民生委員・消防・学校等、各関係機関に働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の協力をもらいながら地域の図書館や温泉施設を利用し又、本人の要望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂きホームの在り方や地域の課題等を助言され、お互いに協力しあう場を設けている。又、必要に応じて相互訪問し相談等を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医への受診も可能である。基本的には家族同行となっているが、不可能な時にはケアマネ対応で行い、家族と協力し、通院介助を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	学習委員会を中心に個人情報やプライバシーに関する勉強会を行い職員の意識向上を図り、定期的に検討会も行い、確認・改善に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の関わりの中で、話しやすい雰囲気作りを心がけ、ご本人の希望や思いを聴きだせるよう努めている。着る洋服なども選んでいただくなど一つ一つ確認しながら、できるだけ自己決定できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、入居者の気持ちを優先して支援している。レク活動など強制せず、したい方にしていただいている。自室ではテレビを観たり、ベッドで休んだり一人一人のペースで思うままに生活している。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容等、馴染みのお店を利用できるよう支援し、毎朝の整容等には気をつけ洋服等も選んで頂いたり、一緒に選んだりとしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で食べたい物を聞き、栄養士と相談しメニューに取り入れてもらっている。又、菜園で取れた野菜や差し入れて頂いた野菜など、調理に加えるなどして職員と一緒に準備・食事・片づけを行なっている。食事前には嚥下体操を行い、メニューの説明し、おいしく食べられるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームで提供するおやつ以外で自分で買われた物や家族が持参されたものを飲食されたりしている。催しがある時には希望者にはお酒を出している。タバコについては職員が預かり、本人の希望する時には他の入居者の迷惑にならないよう換気の良い場所で吸える様、配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を確認しながら、時間を見計らってトイレ誘導している。又、一人の排泄パターンを把握し、仕草などに気をつけてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。オムツの使用に際して、尿量を測ったり、おむつの当て方の工夫をみんなで話し合い、おむつの使用減に取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝の健康チェックを行い、入居者の意向を確認し、ゆっくりと入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様、努めている。夕食から就寝時までの間に、フロアにてテレビを観たりおしゃべりしたりしてゆっくりとくつろいでもらっている。又、寝付けない時には、添い寝をしたり、一緒に温かい飲み物を飲みながらお話ししたりと配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を考慮し、その人に合った役割を持ってもらうことで楽しみごとに繋げている。又、戸外での活動や趣味を活かし、張り合いや喜びのある生活に繋げている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理できる方にはして頂き、困難な方はホームの保管庫にて預かり、管理している。買物などの際には、本人にサイフを渡し、御自分で支払ができる様、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、体調や気分にあわせ散歩や買物に出掛けている。外での活動や芝生の所で一緒にお茶を飲んだり外に出る機会を多く持つようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに初詣やイチゴ狩り・花見・ソーメン流しなど家族と共に外出し又、地域の催し物などに出掛けられる様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかきたい時に電話がかえられる様、支援しており、ご家族から手紙を頂いた時には、読んであげ、手紙の希望がある時には代筆や見本を見ながら自分で書ける様、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂ける様、笑顔で接し、明るい雰囲気作りに努めている。いつでも自由に来て頂ける様お伝えし、ゆっくり過ごして頂ける様、配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心とし勉強会でもテーマとして取り上げ、全職員への意識付けを行なっている。身体拘束とは何か、そしてそれによりどのような弊害があるかなど、話し合いながらケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・非常口・テラス、共に鍵を掛けず、見守りを行なっている。夜間は夜勤者のみになった時点で、防犯上施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者の所在確認は職員同士、目配りしている。昼寝時も時々居室をのぞくなどして安全面に配慮している。夜間は頻回の巡視を行い、安否確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人で管理できる方については、はさみや爪切りなど自己管理されている。洗剤などは目の届きにくい、リネン庫や脱衣所の上の棚に保管している。包丁類は本数の確認を日中定期的に行い、夜間は事務所にて保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	身体拘束委員の中に事故防止を含め、定期的に勉強会を行なっている。事故発生時、若しくは予測される事故に対して全職員を集め、事故に至った経緯、反省点など話し合い、今後の予防策に活かす様、努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアル、及び緊急時の連絡体制を整え、スタッフ全員が熟知できる様に定期的に勉強会を行なっている。全職員が人工呼吸や心肺蘇生法ができる様、普通救命救急講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会を中心に毎月、勉強会や自主訓練を行い又、消防立会いの下、実践訓練を行なっている。救命ボランティアに登録し地域との協力体制を整えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時、その他電話等で本人の状態報告を行い、現状や今後の可能性を理解して頂きながら、利用者の希望に沿った暮らしを支えられる様、支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも変化や異常が見られるときにはバイタルチェックを行い、すぐに看護師へ報告し、主治医との連携を図り、医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書はすぐに見れるよう、個々のファイルに閉じてあり、勉強会でも現在、飲まれている薬についての理解を深めている。投薬ミスがない様、薬を渡す際には職員が日付けと名前を確認しながら声を出して、本人に手渡し、もしくは、口腔内に薬をいれ、飲み込んだところまで確認することになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便回数や量・状態を把握し、水分補給や腹部マッサージなどで対応し、できるだけ館下剤等、薬を使わないようにしている。食事やおやつに繊維物を取り入れたり、牛乳を飲んでいただいたりしている。散歩や体操など、体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人一人の力量に応じて不十分な部分輪介助を行っている。又、就寝時には義歯洗浄を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士により栄養バランスのとれた献立を作ってもらっている。食事・水分摂取量をチェックして記録をとり、スタッフ間で情報を共有している。又、個々の状態に応じた食事形態にしている。食欲がない時などは、ご本人が好きなものを間食として食べて頂くなどしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会を中心に感染対策マニュアルに基づき、定期的に勉強会を行い、種々の感染予防に努めている。感染症の流行時期や動向を早期に情報をもらい、対策を行なうことで流行発生を予防できている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や水周りの衛生管理に努め、食材は新鮮なうちに使い切っている。冷蔵・冷凍庫の食材の在庫や日付点検を行い、適宜、掃除を行い安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節に合わせた花の鉢を置いたりして、親しみやすいように心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロア内の飾り付けを行い、季節感を感じるように配慮している。カーテンやよしず等で光の調節を行い、不快な音を立てないように配慮している。1階では、ウッドデッキにて食事やお茶を飲むなど、有効的に活用し、入居者にとって居心地良く生活できる空間となるよう工夫を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席やソファなどで気の合った入居者同士で会話をされたり、居眠り・テレビ観賞など、思い思いに好きな場所で自由に過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や愛用品又、仏壇など持ち込み、少しでも利用前の生活が維持でき、安心して過ごせる様、配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、窓を開け空気の入替えを行いよどみがない様、気をつけている。湿温計を確認しながら調節し又、入居者一人一人に聞いたり様子を見てあわせている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等全てに手摺を設置し又、歩行の障害となる物を置かないよう、安全に移動できるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度、職員一同で話し合い本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花や野菜を植え、水やりや収穫などをして頂いている。玄関先や芝生にベンチを置き、入居者が涼んだり日なたぼっこを楽しんでいる。又、入居者全員で芝生に出て、お茶を飲んだり、レク活動をしたりしている。1階はベランダを利用してお茶を飲んだり、外の景色を見ながら会話を楽しんでいる。		